

平成27年11月11日

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）との定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、下記のとおり豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本及び豪州の牛肉の需給状況等について意見交換を行う場として、両国において原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算24回目となります。

記

1 日 時：平成27年11月4日（水） 10時～12時30分

2 場 所：ALIC会議室

3 出席者

（MLA）

ミシェル・アラン	会長
アラン・ベケット	取締役
アンドリュー・コックス	日本駐在事務所代表
近藤 美穂子	日本市場担当シニア・マネージャー

（ALIC）

宮坂 亘	理事長	
近藤 康子	副理事長	
小林 博行	総括理事	
神宮 浩	理事	
伊佐 雅裕	総括調整役	
瀬島 浩子	調査情報部長	他

#### 4 会議内容

アラン会長と宮坂理事長の挨拶ののち、ALICから日本の牛肉需給などを説明。MLAから豪州の牛肉需給について以下のとおり説明があり、最後に意見交換を行った。

##### 【豪州の肉牛・牛肉生産の動向】

- ・ 2013年以降、と畜頭数の増加を受け、牛肉生産量は増加してきたが、2015年は約250万トン（前年比8%減）まで減少する見通し。今後の牛肉生産量は、エルニーニョ現象などの気候要因もあって、2017年にかけて200万トンまで減少する可能性が高いが、2020年にかけて224万トン程度まで回復する見込み。
- ・ 2015年の牛飼養頭数は、厳しい干ばつによる放牧環境の悪化を受け、と畜頭数が増加したことで、減少に転じる見通し。2017年まで減少が続いたのち、2020年にかけて現在の水準まで持ち直す見込み。

##### 【牛肉輸出の動向】

- ・ 豪ドルの下落、国際的な牛肉需要の増加、豪州国内の牛肉需要の相対的な低下を受け、輸出量は2013年以降増加してきたが、2015年は牛肉生産量の減少を反映し、120万トンとなり、前年を下回る見通し。今後は、2017年にかけて93万トンまで減少したのち、2020年にかけて110万トンまで回復する見込み。
- ・ 米国向けについては、2015年にかけて輸出量が大きく増加しているが、これまで輸出の中心だった挽き材に加え、牧草肥育牛（グラスフェッド）の冷蔵部分肉の輸出も増加している。
- ・ 日本向けは、穀物肥育牛（グレインフェッド）の冷蔵肉の輸出が増加傾向にある。消費者の豪州産ブランドへの信頼度の高さやサプライチェーンの成熟もあり、他国産とは競合せず、安定的な輸出の継続が見込まれる。
- ・ 中国向けは、これまで輸出の中心だったブリスケット（バラ）以外の部位の輸出量が増加しており、需要の多様化がうかがえる。しかし、サプライチェーンが未整備であることから、日本市場と比べるとやや不安定な市場という評価で、信頼関係の構築途上段階である。
- ・ 日本市場は長期的に安定した市場であることから、今後も日本市場に向けて継続的に輸出していきたい。日豪EPAやTPPという2つの協定は、安価な牛肉を安定的に供給するうえで重要なものであると認識している。

##### **【お問合せ先】**

調査情報部 露木、根本

電話 03-3583-8105 又は 9806